教えて！おぐりん先生！
「投資のレシピ」Vol.1

1. 投資は、料理と同じ！
2. 相場がいつも正解である。自分の考え通りに動かない時は、自分が間違っている。
3. 負けたことを人のせいにしない。
4. もうはもうなり。まだはまだなり。
5. 物事はシンプルに考えよう。
6. 分散投資って、本当に有効？
7. 相場感の軸はブラさない。
8. 肉には赤ワイン、魚には白ワインってほんと？ ～ 市場の常識は疑ったほうが良い時もある ～
9. 相場にキリが良い数字は意味がない。 ～ 買いたい水準に幅を持たせましょう ～
10. スプリング・メソッド（バネ理論）～ 相場が下落した時の心得 ～
11. 含み益は益ではありません。実現させて初めて利益になります。
12. 不要だと思って捨てた情報が重要になっているかも・・・？
    ～ レコードからCDになり、今またレコードが見直されている ～

株式会社和キャピタルの小栗（愛称：おぐりん先生）です。
この資料では、投資の心得を分かりやすく解説します！

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

当ファンドは、マザーファンド（GNマルチアセット・ストラテジーマザーファンド）への投資を通じて、先進国株式、先進国の国債を中心にグローバルな分散投資を行います。マザーファンドの運用については、株式会社和キャピタルの投資助言を受けます。

当ファンドのお申込みにあたっては、必ず最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

■ 設定・運用は
GCI Asset Management
株式会社GCIアセット・マネジメント
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第436号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人投資信託協会

■ 投資助言会社
Nagomi Capital
株式会社和キャピタル
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第2924号
金融商品仲介業者　関東財務局長（金仲）第847号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

※ 最終ページの「当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項」をご覧下さい。

1 投資は、料理と同じ！

投資は料理と似ています。みなさんが鍋料理をする時は、食材や調味料を丹念に選び、鍋に入れて煮込みますよね。途中で味を確かめ、理想の味と異なれば、調味料を足したり、水を入れたりしながら調整していると思います。それは、投資のやり方とまったく同じなんです。

料理にはアイデアや創作力も大事ですが、その前提として料理の基本を知っていなければなりません。

料理の「さ・し・す・せ・そ」です。投資も当然ながら基礎的な知識など基本が大事です。

しかし、基本さえ知っていれば良いわけでもありません。同じ食材やレシピを使っても料理人が違えば料理の出来栄えは違うものです。一番大事なのは最終的に美味しい料理を作ることです。

そのためには、妥協してはいけません。何度も何度も味を確かめ、自分でやれることはすべてやることです。投資をする前に一所懸命に考えて決断すれば、結果はどうであれそれなりの納得感はでるものです。それが、次の投資に好影響を及ぼします。

投資の「さ・し・す・せ・そ」

さ **さあ、相場を楽しもう。**

し **シンプルに考える。**

す **すぐに結果を求めない。**

せ **急いては事をし損じる。**

そ **そうは言っても、最後は自分で決断する。**

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

2 相場がいつも正解である。自分の考え通りに動かない時は、自分が間違っている。

みなさんが投資判断をする時は、新聞や経済誌等いろいろな情報を集めて分析し、経済評論家などのコメントを参考にしながら、自分なりの相場展開を予測して売買していることと思います。

思い通りの相場展開、言い換えれば、「含み益」になるような相場展開の場合は、自分の相場観は素晴らしいと自我自賛していることでしょう。しかし、自分の思いと逆方向に相場が動いた場合、すなわち、「含み損」になった場合は、相場の動きがおかしいと思っているのではないでしょうか？

「いずれ自分の思ったようになってくれるだろう」のような考えが、売却のタイミングを遅らせ、大きな損失につながることを肝に銘じておくことが重要です。

相場はいろいろな要因で動きますが、売買は今の相場価格でしかできません。ここまできたら買うとか売るとかという考えは、単なる願望「絵に描いた餅」でしかありません。

自分の考えが間違ったことを素直に認めることが、今後の投資判断をする上で一番大切であることを自覚してください。

3 負けたことを人のせいにしない。

みなさんは、ここで売るとか買うとかいう決断はどの様にしますか。「投資のプロ」は、様々な経済分析資料を読んだり、チャートを研究したり、著名な経済評論家の意見を参考にしたりします。変わったところでは、占星術などを参考にしている人もいます。

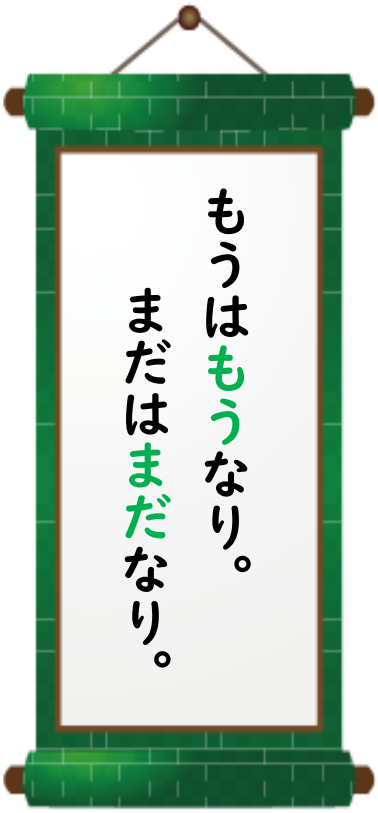
なぜ、そのようなことまで真剣にするのでしょうか？

それは、相場がこれからどっちに動くかは誰にもわからないからです。まさに、神のみぞ知る、です。そんな中で、「投資のプロ」は自分で売買の決断をし、行動をしなければなりません。それは、かなり勇気のいることですし、結果に対する責任もすべて自分に降りかかります。ですから、売買することの背中を押してもらうためにいろいろなことを工夫し実践しているんです。

ところで、みなさんは売買の決断を自分でしていますか？よくあるパターンは、勝った時は自分の力で、負けた時はあの人がこんなこと言ったからとか、新聞に書いてあったからとか思っていませんか？そんな考え方をしていては、投資家としての成長はありえません。すべて、自分のこととして考え、決して人のせいにしてはいけません。

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

4 もうはもうなり。まだはまだなり。



自分の決断を信じて、

みなさん、相場の格言で「もうはまだなり。まだはもうなり。」という言葉を聞いたことがありませんか？言葉の意味は、もう底だと思えるようなときは、まだ下値があるのではないかと一応考えてみてください。反対に、まだ下がるのではないかと思うときは、もうこのへんが底かもしれないと反省してみてはどうですかということです。実際、「投資のプロ」と言われる人のほとんどがこの言葉を使います。

事実、心の中でまだ買うのは早いと思っているときに相場は上がっていき、まだ上がるだろうと思っていると下がってしまう。そういう経験をお持ちの方は多いだろうと思います。

しかし、この格言は、一歩間違えると「買いと思ったら売り、売りと思ったら買い」というようにとらえられがちです。投資の世界で自己否定するようは判断をしてはいけません。自分の投資なんですから、自分の決断を信じて売買をしましょう。「もうはもうなり、まだはまだなり」です。

5 物事はシンプルに考えよう

最近時の情報化社会の進展には目を見張るものがあります。世界中のどこにいても、パソコンや携帯で誰でも同じ情報をほぼ同時に知ることができます。そして、自分から知りたい情報があれば、ネットで検索してすぐに手に入れることができます。つまり、みなさんのまわりには、みなさんの意思にかかわらず様々な情報がうずまいているわけです。

投資をする上で、いろいろな情報を入手することが大切なのは言うまでもありません。しかし、その中には、不必要な情報もたくさん含まれています。そこで一番重要なことは、取り込んだ情報を選別し、要らない情報をいかに外に出すかです。つまり、必要な情報だけをいかに残すかということです。

料理にたとえれば、美味しい料理をつくるために、鰹節のうま味だけを抽出し出汁をとるのと同じです。そうすると、不純物がなくなって透明でシンプルなものだけが残ります。そして、みなさんの投資判断が明確になります。

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

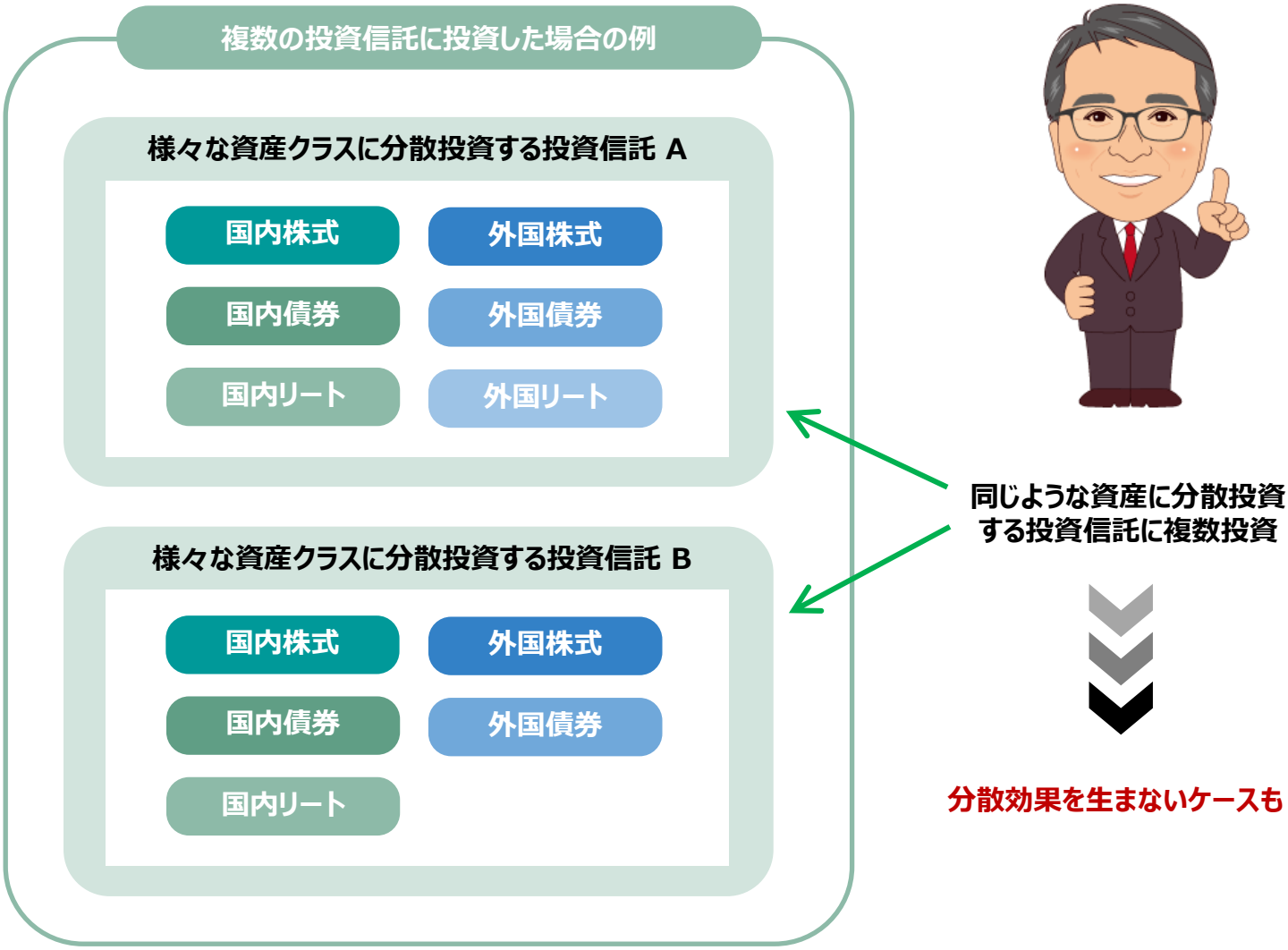
6 分散投資って、本当に有効？

「分散投資」って聞いたことありますよね？「分散投資」とは、投資先や投資するタイミングを一つに限定しないで、複数の投資先（資産分散）にいろいろなタイミング（時間分散）で投資することをいいます。一つの資産に集中投資をしてしまうと、その資産の値動きだけで運用資産全体が左右されてしまうことになります。ですから、投資をする際は、「長期投資」と合わせて、投資先や投資するタイミングを分散する投資を心掛けることが大切です。

では、分散投資をしておけば、相場が大きく上下しても必ず損失は小さく抑えられるのでしょうか？

いつでもそうとは限りません。たとえば、2008年9月のリーマンショックの時は、大半の資産が暴落し、世界中のほとんどの投資家が大きな損失をだしました。ですから、分散投資をしているからといって安心しないで、日々市場の動きをチェックしておくことが重要です。

さらに、分散投資でよく間違える事例としては、「国内の株式・債券・リートや外国の株式・債券・リートなどに分散投資する投資信託」をいろいろ買っているから、投資は分散されていて安心だと勘違いすることです。確かに、個々の投資信託は分散投資されリスクは軽減されているかもしれませんが、投資信託の投資先をよくみないと、ほとんどの投資信託が同じような資産に分散投資していて、結果として分散効果がないケースもあります。購入した投資信託の運用の中身をよく理解して投資するようにしましょう。



※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

7 相場感の軸はブラさない

みなさん、電車に乗っていて、となりに止まっていた電車が動き出したのに、自分の乗っている電車が動き出したような錯覚に陥ったことはありませんか？

相場でも同じように錯覚することがあるんです。それは、いろんな情報を見たり、いろんな人の意見を聞いたりして、「上がるかもしれない？下がるかもしれない？」と自分の相場感があやふやで定まっていない時に起こります。相場はほとんど動いていないのに、自分の相場感が大きくブレているため、相場が大きく動いたように錯覚するんです。マジックのように、動いていない物が動いているように見えるんです。言い換えれば、「相場に振らされている」状態ですから上手くいくわけがありません。そして、このような錯覚をしていたことは、後からわかることなので打つ手はありません。ですから、投資をするときは、自分の相場感の軸をしっかり定めてから始めるようにしましょう。

8 肉には赤ワイン、魚には白ワインってほんと？
～ 市場の常識は疑ったほうが良い時もある ～

みなさんの中には、ワイン好きの方もいるかと思いますが、ワインを飲まない方でも「肉料理の時は赤ワイン、魚料理の時は白ワイン」って話は聞いたことがあると思います。ワインと料理の相性が語られるときは、もはや常識のようになっています。しかし、それは常に正解なのでしょうか？

以前、日本を代表する著名なソムリエと会食した時に、「肉料理は赤、魚料理は白って聞きますが本当ですか？」と質問したことがあります。その答えは、「世界中に多種多様なワインがあり、肉料理に合う白もあれば、魚料理に合う赤もあります。ソムリエの仕事は、その料理に一番合ったワインを選び提供することです。」でした。さらに言えば、赤ワインは常温、白ワインは冷やして飲むと思っている方も多いと思いますが、あくまで、フランスやイタリアの常温です。気候の違う日本で飲む赤ワインは冷やして飲んだほうが良い時もあります。

市場の常識にも同じことが言えます。例えば、「景気が良ければ株は買われる」「円高になれば株は売られる」などです。言われていることは正論ですが、市場ではいつも正解とは限りません。景気が良くてもすべての株が買われる訳ではないですし、株が売られる局面もあります。

ですから、市場の動きを考える時には、市場の常識をベースにしながらも、ソムリエのように今の市場の動きに一番合った選択をすることが大切です。

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

9 相場にキリが良い数字は意味がない。～ 買いたい水準に幅を持たせましょう ～

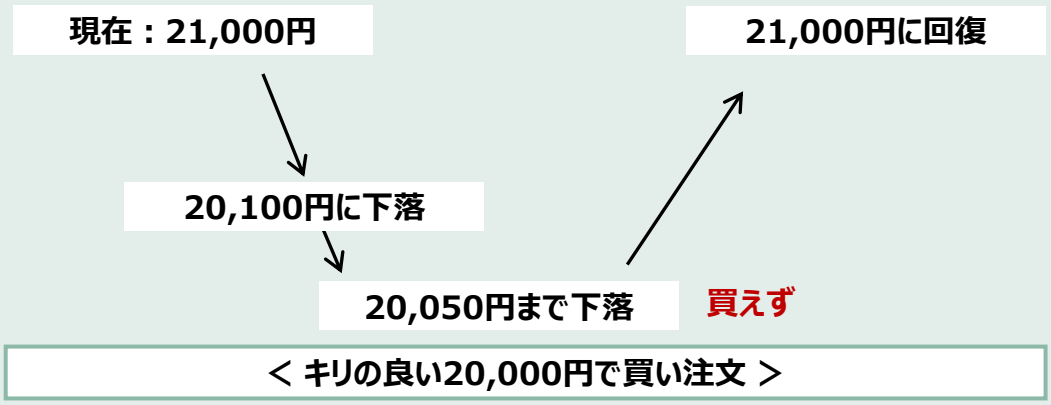
みなさんは、株などの買いたい水準をどのように決めていますか？たとえば、日経平均株価が21,000円の時に、今後の相場の動きを予想して20,000円にきたら株を買うと決めたとします。そして、相場が予想通り20,100円まで下落を続けたとします。いよいよ買いのチャンス到来です。キリの良い20,000円で買い注文を出して待っていると、20,050円まで下落したあと上昇し、株価は21,000円に戻ってしまいました。このような経験をした方は多いのではないでしょうか？

とかく日本人は節目節目を大事にしますから、キリの良い数字を好きな人も多いと思います。しかし、世界中の市場参加者は、日本人ほどキリの良い数字にはこだわりませんし、ＡＩなどはなおさらです。

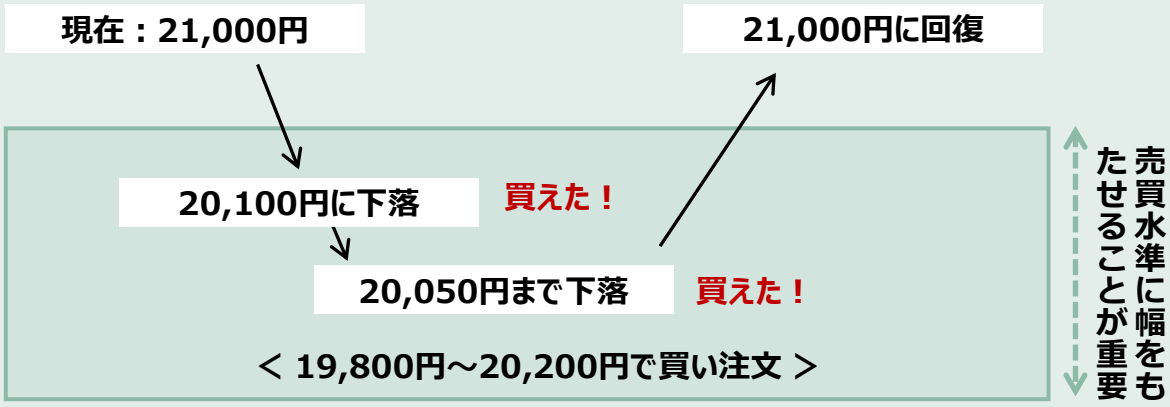
自分が想定した水準で売買をするためには、キリの良い数字にこだわりすぎてはいけません。20,000円近辺（たとえば19,800円～20,200円）で買えれば良いと柔軟に考えるようにしましょう。ですから、買いたい、あるいは売りたい水準はキリの良い数字にしないである程度の幅を持たせ、その中にきたら何回かに分けて段階的に買い、最終的に当初想定した金額になるようにしましょう。それが、買い損ないや売り損ないをして、あとで後悔をしない最善のやり方です。

株価指数（日経平均株価）に投資したと仮定した場合の売買例

例1



例2



※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

10 スプリング・メソッド（バネ理論）～ 相場が下落した時の心得 ～

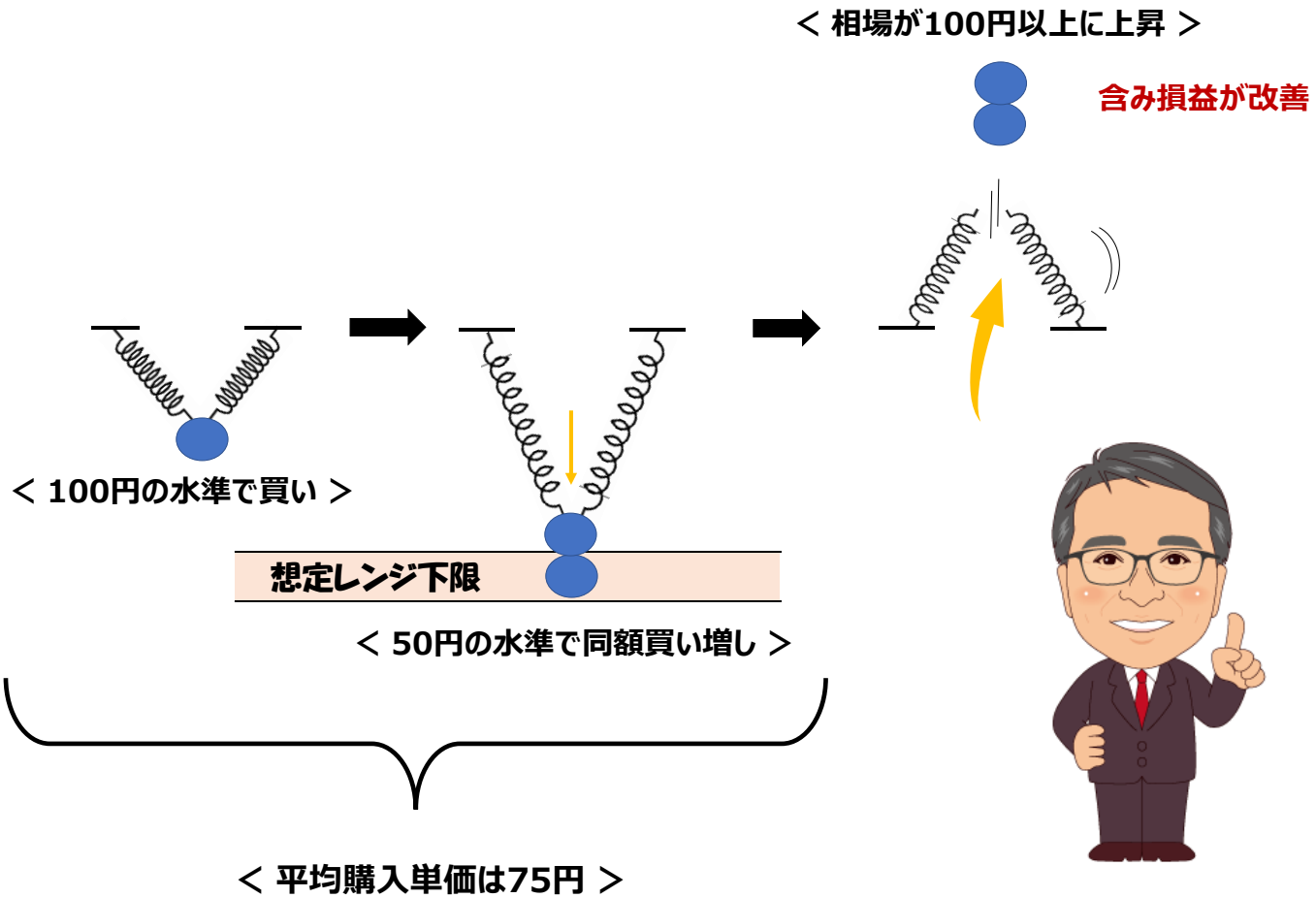
相場は時間をかけて必ずバネのように上下運動を繰り返します。バネは下に伸ばしてから手をはなすと勢いをつけて上に跳ねあがりますよね。ですから、バネが伸びたところでおもり（株式とかの買い）をつければ、そのおもりは勢いよく上昇し、高く上にあがります。このバネの特性は、運用における相場下落時の対応と含み損益の改善に置き換えることができます。

相場が下落して含み損益が悪化している時は、言い換えれば、バネが伸びている状態なわけですから、自分が買うと決めたレベルでしっかり買う（バネにおもりをつける）ことが大切です。たとえば、100円で買ったものが50円に値下がりしたとします。50円で同額買い増せば、運用額は倍になりますが平均単価は75円になります。そして、伸びたバネが勢いよく上昇（相場が100円以上に上昇）すれば、含み損益は大幅に改善することになります。ですから、このような相場局面は、含み損益を改善させる絶好のチャンスですし、そのやり方次第でその後の売買がやりやすくなります。

ただし、相場が下落していく局面で、早くおもりをつけすぎると、その重みで上に戻りきらないので、どのタイミングでどれだけおもり（株式等の買い）をつけるか注意が必要ですが。

これが、「スプリング・メソッド（バネ理論）」～相場が下落した時の心得～です。相場が下落した時こそ、その先を見据えて冷静に行動することが大切です。

スプリング・メソッド（バネ理論）のイメージ



※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

11 含み益は益ではありません。実現させて初めて利益になります。

みなさんは、自分の買った価格より相場が上昇したら、「あっ、儲かった」と思ってはいませんか？確かに、含み益にはなっていますが、あくまで仮定の話です。ですから、相場が下落すれば含み益が減るどころか、場合によっては含み損になってしまいます。まさに、「とらぬ狸の皮算用」です。投資を継続し利益を積み上げていくには、含み益は実現させることが重要です。いったん含み益になったのに、最後に損失を実現してしまうようなことがあってはなりません。

ただし、これは短期的な投資の場合だけです。短期的な投資なのか、長期的な資産形成のためなのか、投資の目的によって考え方は違います。将来のための「守り育てる投資」の場合は、相場の変動に一喜一憂することなく、気長に熟すのを待ちましょう。熟成した肉の味は格別ですし、年代物の赤ワインによく合いますよね。

短期的な投資の場合、
含み益を実現させることが重要。

将来のための「守り育てる投資」の場合、
相場の変動に一喜一憂せず、気長に熟すのを待ちましょう。

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

12 不要だと思って捨てた情報が重要になっているかも・・・？ ～ レコードからCDになり、今またレコードが見直されている ～

投資のレシピ第５回「物事はシンプルに考えよう」で、取り込んだ情報を選別し、要らない情報をいかに外に出すか、つまり必要な情報だけをいかに残すかが重要だと書きました。しかし、時代背景や市場環境が変化すると、以前は不要だと思って捨てた情報が重要になっていることがあります。

例えば、レコードからCDへの変化がそうです。アナログレコードで音楽を聴くと、音質が一定ではないし、雑音も入り、音が飛んだりもしました。そこで、正確な音質を求めてレコードに代わってCDが開発され、雑音などが取り除かれたクリーンな音で音楽を聴くことができるようになりました。

しかし、正確性を求める余り、CDでは人が耳では聞き取れない高低音がカットされ音域が狭くなり、レコードにあった雑音が消され音に深みがなくなってしまいました。CDは、一見無駄を省き、高品質になったように思われますが、結果として薄っぺらい均質的な音になってしまい、今やレコードの良さが見直されています。

投資を考える上で、本質を見極めることが大事ではありますが、不要な情報を捨てすぎても本質が見えなくなってしまう可能性があります。また、市場環境の変化によっては、捨てた情報が見直されて重要になることもあります。過去をもう一度振り返って、再び考えてみることで、捨てた情報の重要性に気付き新たな知恵が生まれるかもしれません。

※ 当資料の内容およびコメントは、資料作成時点の株式会社和キャピタルの見解を示したもので、当該見解は予告なく変更される場合があります。

「なごみの杜」特設ページ開設のご案内

マルチアセット・ストラテジーファンド（愛称：なごみの杜）の特設ページを開設しました。ファンドの特色や運用状況、分配実績のほか、月次レポート等を掲載しております。今後、新着情報や臨時レポートなども掲載していく予定です。是非、ご覧ください。

URL

https://nagominomori.info/

QRコード

※ パソコン・スマートフォン共通

投資リスク

当ファンドは、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、**投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。なお、投資信託は預貯金とは異なります。**

当ファンドが有する主なリスク要因は以下の通りです。

株価変動リスク	株価は、発行者の業績、経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。株価が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
金利変動リスク	債券などの価格は、一般的に金利低下（上昇）した場合は値上がり（値下がり）します。なお、債券などが変動金利である場合、こうした金利変動による価格の変動は固定金利の場合と比べて小さくなる傾向があります。また、発行者・債務者などの財務状況の変化などおよびそれらに関する外部評価の変化や国内外の経済情勢などにより変動します。債券などの価格が下落した場合は、基準価額の下落要因となります。
為替変動リスク	為替相場は、各国の経済状況、政治情勢などの様々な要因により変動します。投資先の通貨に対して円高となった場合には、基準価額の下落要因となります。なお、当ファンドおよび投資信託証券において、外貨建資産について、為替予約を活用し、為替変動リスクの低減を図りますが、完全にヘッジすることはできませんので、外貨の為替変動の影響を受ける場合があります。また、為替ヘッジを行う通貨の短期金利と円短期金利を比較して、円短期金利の方が低い場合には、当該通貨と円の金利差相当分等のコストがかかることにご留意ください。
信用リスク	投資対象となる債券等の発行体において、万一、元利金の債務不履行や支払い遅延（デフォルト）が起きると、債券価格は大幅に下落します。この場合、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。また、格付機関により格下げされた場合は、債券価格が下落し、当ファンドの基準価額が下落するおそれがあります。
デリバティブ取引のリスク	当ファンドは有価証券および金利関連のデリバティブ（先物取引の金融派生商品）に投資することがあります。デリバティブの運用には、ヘッジする商品とヘッジされるべき資産との間の相関性や流動性を欠く可能性、証拠金を積むことによるリスク等様々なリスクが伴います。実際の価格変動が見通しと異なった場合に、当ファンドが損失を被るリスクを伴います。
流動性リスク	時価総額が小さい、取引量が少ないなど流動性が低い市場、あるいは取引規制などの理由から流動性が低下している市場で有価証券等を売買する場合、市場の実勢と大きく乖離した水準で取引されることがあり、その結果、基準価額の下落要因となる可能性があります。

※ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に**1.1%（税抜1.0%）**の率を乗じて得た額とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に**0.05%**の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用（信託報酬）	純資産総額に対し**年率0.88%（税抜 年率0.80%）以内** 信託報酬率は、ファンドの純資産総額の残高に応じて変更します。
その他の費用・手数料	**＜売買委託手数料など＞** 有価証券売買時の売買委託手数料、立替金の利息、ファンドに関する租税などが信託財産から支払われます。これらの費用は運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することができません。
	＜信託事務の諸費用＞ 監査費用、印刷費用、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用などの諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.1%を上限として日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

純資産総額	100億円以下部分	100億円超部分
信託報酬率	年率 0.88% （税抜 年率 0.80%）	年率 0.825% （税抜 年率 0.75%）

※ 投資者の皆さまにご負担いただく手数料等の合計額については、当ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

お申込みメモ

購入・換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。（ファンドの基準価額は1万口あたりで表示しています。）
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目から販売会社を通じてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受け付けた分を当日のお申込み分とします。
購入・換金の申込受付不可日	ニューヨークの銀行休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日およびロンドンの銀行休業日 ※ 詳しい申込受付不可日については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みを取り消すことがあります。
信託期間	2018年6月20日（設定日）から2023年2月27日まで ※ 受益者に有利であると認めたときは、受託会社と協議のうえ、信託期間を延長することができます。
決算日	原則、毎年2月および8月の各10日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。収益分配金の受取方法により、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の２つの申込方法があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度（NISA）および未成年者少額投資非課税制度（ジュニア NISA）の適用対象です。配当控除・益金不算入制度の適用はありません。

※ その他の項目につきましては、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

販売会社

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
岡崎信用金庫	登録金融機関	東海財務局長（登金）第30号	○			
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長（登金）第60号	○			
株式会社福井銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第2号	○		○	

※ お申込み、投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、販売会社へお申し出ください。
※ 販売会社は今後変更となる場合があります。

当資料のお取扱いに関してご留意いただきたい事項

- 当資料は、株式会社GCIアセット・マネジメント（以下「当社」といいます）が、当ファンドの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- 当資料記載のデータや見通し等は、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、正確性、適時性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は、作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、参考として記載されたものであり、その銘柄または企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- 各指数に関する著作権等の知的財産、その他一切の権利は、各々の開発元または公表元に帰属します。
- 当資料に関する一切の権利は、引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部または全部の無断での使用・複製はできません。
- 投資信託は預金保険制度の対象ではありません。また、銀行が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。